

まざまな国際コンファレンスを主催してきました。来年度もこれらの活動を継続してまいります。また、新しい事業として、50周年に合わせて、「TCER 50年史」の編集を計画しております。事務局に残されている文書を整理し、TCERの活動を推進してこられた先生方のお話をうかがって、TCERの半世紀の活動を記録に残すという事業です。50周年の機会に経済史を研究分野としている私が代表理事を務めていることもなにかのめぐり合わせのように感じます。研究員、OBの皆様インタビュー等を依頼することもあるかと思いますが、その節はよろしく願い申し上げます。

なお、昨年12月に発足した新しい公益法人制度に基づいて、TCERは現在、公益法人への移行の準備を進めています。公認会計士事務所等と打合せをしながら、できれば今年中に移行の申請を行いたいと考えています。公益法人への移行が円滑に行われ、それがTCERの発展のステップとなることを望んでいます。

(2) 2008年度第2回理事会・研究員会報告

2008年度第2回理事会は、2009年2月10日(火曜日)午後3時～午後4時、飯田橋のTCER事務所において開催されました。2009年度事業計画案、2009年度予算案等が審議されました。これを受けて、同日午後4時～午後5時、研究員会が開催され、上記の案件が承認されました。御参加(委任状を含む)された皆様に感謝致します。

(3) 2008年度第2回評議員会・第3回理事会報告

2008年度第2回評議員会は、2009年3月9日(月曜日)午後0時30分～1時30分、日本工業倶楽部にて開催されました。2009年度事業計画案、2009年度予算案等が審議、承認されました。引き続き、2008年度第3回理事会が開催されました。

(4) 2008年度研究報告、2009年度研究計画、住所確認のお願い

TCER研究員の唯一の義務は研究計画書と報告書の提出となっております。年度末のお忙しい時期に恐縮ですが、2008年度の研究計画に沿った形での研究報告、2009年度の研究計画、および所属等の確認を3月末までにメールでお願いすることになっております。近日中に代表理事代理からメールが送信されますが、返信は担当理事宛にお願いいたします。尚、2008年度の研究計画はTCERのウェブサイト <http://www.tcer.or.jp/cat3/index.html> に掲載されておりますので、ご参考になさって下さい。

(5) 2009年度研究助成応募要領概要

2008年度より、研究プロジェクト助成が再開されました。本研究助成制度は、経済学に関わる理論・実証面での萌芽的研究を支援することが目的として設立されたものです。新公益法人への移行に伴い、これまで研究員のみと限ってきました応募資格をオープンにすることになりました。ただし、同一テーマで過去3年以内に助成を受けた方(共同研究者である場合も含む)は応募できません。2009年度のTCER研究助成応募要領の概要は以下の通りです。

助成金額：一件につき最高40万円

助成対象期間：2009年4月～2010年3月（2010年2月末までに所定の様式に従って研究成果報告書を提出するとともに、研究成果を東京経済研究センターワーキング・ペーパーとしてとりまとめるものとする。）

応募資格：東京経済研究センター研究員および一般の研究者

応募締め切り：2009年4月30日（木）消印有効

応募先：〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-7-10 山京ビル本館 601号室 財団法人東京経済研究センター 個人プロジェクト研究助成係

詳細はTCERのウェブサイトに掲載されます。

研究助成についてのお問い合わせは、代表理事代理柳川(yanagawa@e.u-tokyo.ac.jp)までお願いいたします。

2. TCER 研究会

2008年度のTCER研究会は東京大学にて、東京大学マクロワークショップ、および東京大学ミクロワークショップとの共同開催の形で開催されました。

マクロワークショップのウェブサイト：

<http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/research/workshops/macro/macro.html>

ミクロワークショップのウェブサイト：

<http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/research/workshops/micro/micro.html>

に最新の情報があります。後期の研究会を掲載いたします。

日時：2008年 9月 5日（金） 午後4:50～6:30

報告者：西村 和雄氏(京都大学 経済研究所)

論題：“Complementarity and Optimality: Two Dimensional Dynamical Systems”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年 9月11日（水） 午後4:50～6:30

報告者：Philippe Martin氏(Universite Paris 1 Pantheon Sorbonne (Paris School of Economics))

論題：“Varieties and the Transfer Problem: the Extensive Margin of Current Account Adjustment” in coalition formation problems” (with Giancarlo Corsetti and Paolo Pesenti)

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 12階 第1共同研究室

日時：2008年 9月22日（月） 午後5:30～6:30

報告者：Hodaka Morita氏(University of New South Wales)

論題：“Discrete innovation, continuous improvement, and competitive pressure” (joint with Arghya Ghosh and Takao Kato)

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 12階 第1共同研究室

日時：2008年 9月26日（金） 午後0:10～1:30

報告者：Chikako Yamauchi氏（Australian National University）

論題：“Community-based Targeting and Initial Local Conditions: Evidence from Indonesia's IDT Program”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 12階 第1共同研究室

日時：2008年 9月30日（火） 午後4:50～6:30

報告者：宮川 栄一氏（神戸大学）

論題：“Contribution Dynamics in Joint Projects with Incomplete Information”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年10月 2日（木） 午後4:50～6:30

報告者：Julen Esteban-Pretel氏（東京大学）

論題：“On the Role of Policy Interventions in Structural Change and Economic Development: The Case of Japan's Postwar”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年10月 7日（火） 午後4:50～6:30

報告者：矢野 誠氏（京都大学）

論題：“Market Quality and Competitive Fairness in an Open Market Bargaining Model”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年10月 9日（木） 午後4:50～6:30

報告者：小枝 淳子氏（International Monetary Fund）

論題：“A Debt Overhang Model for Low-Income Countries”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年10月14日（火） 午後0:10～1:10

報告者：Lakshmi K. Raut氏（Social Security Administration）

論題：“Intergenerational Long Term Effects of Preschool - Estimates from a Structural Dynamic Programming Model”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 12階 第1共同研究室

日時：2008年10月14日（火） 午後4:50～6:30

報告者：佐野 隆司氏（東京大学大学院）

論題：“The Bidding Strategy in the Ausubel-Milgrom Proxy Auction with Complementarities”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年10月16日（木） 午後4:50～6:30

報告者：Gian Maria Milesi-Ferretti氏（International Monetary Fund）

論題：“Fundamentals at Odds? The Dollar and The U.S. Current Account Deficit”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年10月21日（火） 午後4:50～6:30

報告者：奥平 寛子氏（大阪大学）

論題：“The Economic Costs of Court Decisions Concerning Dismissals in Japan: Identification by Judge Transfers”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年10月24日（金） 午後4:50～6:30

報告者：Edward C. Prescott氏（Arizona State University）

論題：“Technology Capital and the Current Account”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第4教室

日時：2008年10月28日（火） 午後0:00～1:10

報告者：John Riew氏（Pennsylvania State University）

論題：“Japan's Competitive Advantages in the Global Market”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 12階 第1共同研究室

日時：2008年10月28日（火） 午後4:50～6:30

報告者：関口 格氏（京都大学）

論題：“Repeated Games with Costly Imperfect Monitoring”（joint with Eiichi Miyagawa and Yasuyuki Miyahara）

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年11月 4日（火） 午後4:50～6:30

報告者：松島 斉氏（東京大学）

論題：“Implementation and Social Influence”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年11月11日（火） 午後4:50～6:30

報告者：高野 久紀氏（アジア経済研究所）

論題：“Is Group Lending A Good Enforcement Scheme for Achieving High Repayment Rates? Evidence from Framed Field Experiments in Vietnam”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年11月18日（火） 午後4:50～6:30

報告者：大橋 賢裕氏（東京大学大学院）

論題：“Speculative Bubbles Prevention by Market Makers”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年11月20日（木） 午後4:50～6:30

報告者：福田 慎一氏（東京大学）

論題：“Infrequent Changes of Policy Target: Robust Optimal Monetary Policy under Ambiguity”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年11月25日（火） 午後4:50～6:30

報告者：中島 亮氏（筑波大学）

論題：“The Effect of Collaboration Network on Inventors’ Job Match, Productivity and Tenure”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年11月27日（木） 午後4:50～6:30

報告者：伊藤 隆敏氏（東京大学）

論題：“Effects of Japanese Macroeconomic Announcements on the Dollar/Yen Exchange Rate: High-Resolution Picture” (joint with Yuko Hashimoto)

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年12月 2日（火） 午後4:50～6:30

報告者：小島 武仁氏（Yale University）

論題：“Asymptotic Equivalence of Probabilistic Serial and Random Priority Mechanisms” (joint with Yeon-Koo Che)

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年12月 4日（木） 午後4:50～6:30

報告者：西山 慎一氏（Georgia State University）

論題：“Designing the Optimal Social Security Pension System”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年12月 9日（火） 午後4:50～6:30

報告者：安達 貴教氏（東京工業大学）

論題：“A Life-Cycle Model of Entrepreneurial Choice: Understanding Entry into and Exit from Self-Employment”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年12月11日（木） 午後4:50～6:30

報告者：Makoto Watanabe氏 (Universidad Carlos III de Madrid)

論題：“Liquidity Constraints in a Monetary Economy”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年12月16日（火） 午後0:10～1:30

報告者：Harrison Cheng氏 (University of Southern California)

論題：“Auctions with Resale and Bargaining Power”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 12階 第1共同研究室

日時：2008年12月16日（火） 午後3:30～7:30

(1)報告者：Virgiliu Midrigan(New York University)

論題：“Temporary Price Changes and the Real Effects of Monetary Policy” (joint with Patrick J. Kehoe)

(2)報告者：Andrew Levin(Federal Reserve Board)

論題：“Reconsidering the Microeconomic Foundations of Price-Setting Behavior” (joint with Tack Yun)

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 12階 第1共同研究室

日時：2008年12月16日（火） 午後4:50～6:30

報告者：林 貴志氏 (University of Texas at Austin)

論題：“Choice and Individual Welfare” (joint with Christopher P. Chambers)

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2008年12月18日（木） 午後4:50～6:30

報告者：Tomoo Kikuchi氏 (National University of Singapore)

論題：“Risk Aversion and Endogenous Credit Cycles in a Small Open Economy”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2009年 1月19日（月） 午後0:00～1:30

報告者：馬場 千佳子氏 (University of Wisconsin-Madison)

論題：“Understanding Law of One Price Deviations: Local Distribution Services and Price Discrimination”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 12階 第1共同研究室

日時：2009年 2月 5日（木） 午後4:50～6:30

報告者：松山 公紀氏 (Northwestern University)

論題：“Endogenous Productivity Differences and Patterns of International Capital Flows”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2009年 2月 6日（金） 午後0:10～1:40

報告者：Daehee Jeong氏（Texas A & M University）

論題：“Does Ambiguity Matter? An Estimation of Asset Pricing Models with a Multiple-Priors Recursive Utility”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 12階 第1共同研究室

日時：2009年 2月12日（木） 午後4:50～6:30

報告者：Nao Sudo氏（日本銀行）

論題：“Accounting for Oil Price Variation and Weakening Impact of the Oil Crisis”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2009年 2月17日（火） 午後4:50～6:30

報告者：Marc Rysman氏（Boston University）

論題：“Dynamics of Consumer Demand for New Durable Goods”（joint with Gautam Gowrisankaran）

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2009年 2月23日（月） 午後4:50～6:30

報告者：Bruno Strulovici氏（Northwestern University）

論題：“Comparative Statics, Informativeness, and the Interval Dominance Order”（joint with John Quah）

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2009年 3月 3日（火） 午後4:50～6:30

報告者：梶井 厚志氏（京都大学）

論題：“Sunspot Equilibria in a Production Economy: Do Rational Animal Spirits Cause Overproduction?”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2009年 3月 6日（金） 午後4:50～6:30

報告者：國枝 卓真氏（龍谷大学）

論題：“Financial Globalization and Inequality”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2009年 3月10日（火） 午後4:50～6:30

報告者：若井 克俊氏（京都大学）

論題：“Modeling Non-Monotone Preference: In the Case of Utility Smoothing”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2009年 3月12日（木） 午後2:00～3:40
 報告者：Rodney Ludema氏（Georgetown University）
 論題：“The Most-Favored-Nation Clause”
 場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2009年 3月17日（火） 午後4:50～6:30
 報告者：Minjung Park氏（University of Minnesota）
 論題：“Advertising and Market Share Dynamics”
 場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

3. コンファレンスご案内・報告

(1) 2008年度 TCER ミクロコンファレンス報告

今年度のTCER ミクロコンファレンスは、第14回ディセントラライゼーション(DC)コンファレンスと共同開催のかたちで2008年9月13日(土)に近畿大学経済学部・EキャンパスB館にて行われました。

例年同様、コンファレンスは招待講演と投稿論文から構成されました。

投稿論文では、ミクロ経済学の理論的アプローチに関する論文を中心に応用分野の論文も集まり、午前9時45分から12時15分までと午後13時30分から16時まで、それぞれ2つの並行するセッションにて計12本の論文が報告されました。

また、16時15分から17時15分まで宮川栄一准教授（神戸大学大学院経済学研究科）に招待講演を行っていただきました。総参加者数は約40名で、活発な意見が出され、大変充実した有意義なコンファレンスとなりました。プログラム委員およびプログラムの詳細は以下のとおりです。

プログラム委員

石黒真吾（大阪大学）、梶井厚志（京都大学）、清滝ふみ（近畿大学）、清野一治（早稲田大学）、小林磨美（近畿大学）、関口格（京都大学）、宮川敏治（大阪経済大学）

プログラム

セッションA 午前の部 座長 梶井 厚志（京都大学経済研究所）

9:45-10:30 石田 潤一郎（大阪大学国際公共政策研究科）

Decisiveness

10:30-11:15 稲見 裕介（京都大学大学院）

The Buy Price in Auctions with Discrete Type Distributions

11:30-12:15 土橋 俊寛（一橋大学大学院）

Sequential Internet Auctions with Different Ending Rules

セッションB 午前の部 座長 石川 竜一郎（筑波大学システム情報工学研究科）

9:45-10:30 橋本 和彦（大阪大学大学院）

Strategy-Proof and Anonymous Rule in Queuing Problems: A Relationship
between Equity and Efficiency

10 : 30-11 : 15 阿武 秀和 (早稲田大学大学院)

On the Second Best Efficiency in the Division Problem

11 : 30-12 : 15 石川 竜一郎 (筑波大学システム情報工学研究科)

A Simulation Study of Learning a Structure: Mike' s Bike
Commuting

セッションA 午後の部 座長 吉原 直毅 (一橋大学経済研究所)

13 : 30-14 : 15 吉川 満 (関西学院大学大学院)

完全記憶がある確率進化ゲーム理論 (Stochastic Evolutionary Game Theory
with Perfect Recall)

14 : 30-15 : 15 吉原 直毅 (一橋大学経済研究所)

A Theory of Political Competition over Military Policy and Income
Redistribution

15 : 15-16 : 00 加藤 晋 (東京大学大学院)

Quasi-decisiveness, Quasi-ultrafilter, and Social Quasi-orderings

セッションB 午後の部 座長 渡邊 直樹 (筑波大学システム情報工学研究科)

13 : 30-14 : 15 工藤 教孝 (北海道大学経済学研究科)

Price Setting and Competition with Search Frictions

14 : 30-15 : 15 白田 康洋 (一橋大学経済研究所)

Decentralized Trading and Formation of Network between Buyers and Sellers

15 : 15-16 : 00 渡邊 直樹 (筑波大学システム情報工学研究科)

Turnover Cycle of Quality Adjusted Prices: Theory and Evidence from
Japanese Mobile Phone Handsets

招待講演 司会 関口 格 (京都大学経済研究所)

16 : 15-17 : 15 宮川 栄一 (神戸大学大学院経済学研究科)

Contribution Dynamics in Joint Projects with Incomplete
Information

(2) 2008年度TCER マクロコンファレンス報告

第10回マクロコンファレンス (10th Macro Conference) は2008年12月6日 (土)、7日 (日) の二日間、TCER、一橋大学経済研究所学術創成研究プロジェクト物価研究センター、慶應義塾大学GSEC研究所オープン・リサーチ・センター整備事業、大阪大学大学院経済学研究科・社会経済研究所グローバルCOEプログラムの共催の下、一橋大学大学院国際企業戦略研究科 (東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2、学術総合センター内) にて開催され、大盛況でした。幹事はチャールズ・ユウジ・ホリオカ (大阪大学)、櫻川昌哉 (慶應義塾大学)、塩路悦朗 (一橋大学) の各氏でした。プログラムは以下の通りです。

12月6日(土)

セッション1：家計と消費 座長：齊藤誠(一橋大学経済学研究科)

11:00~12:00：作道真理(シカゴ大学研究員)

“Strategic Interactions between Parents and Daughters: Co-residence, Marriage, and Intergenerational Transfers in Japan”

コメント：東三鈴(千葉経済大学経済学部)

12:00~13:00：山田知明(立正大学経済学部)

“Income Risk, Consumption Inequality, and Macroeconomy in Japan”

コメント：楡井誠(一橋大学イノベーション研究センター)

セッション2：金融とマクロ経済 座長：有賀健(京都大学経済研究所)

14:00~15:00：渡辺誠(Universidad Carlos III de Madrid経済学部)

“Liquidity Constraints in a Monetary Economy”

(Leo Ferraris氏との共著)

コメント：清水崇(関西大学経済学部)

15:30~16:30：細野薫(学習院大学経済学部)

“Financial Constraints, Capital Allocation and Aggregate Productivity”

コメント：小林慶一郎(経済産業研究所)

セッション3：家計と消費Ⅱ 座長：チャールズ・ユウジ・ホリオカ(大阪大学社会経済研究所)

16:30~17:30：福重元嗣(大阪大学大学院経済学研究科)

窪田康平(大阪大学大学院経済学研究科大学院生)

“Rational Consumption”

コメント：市村英彦(東京大学大学院経済学研究科)

12月7日(日)

セッション4：国際経済 座長：櫻川昌哉(慶応義塾大学経済学部)

9:30~10:30：松林洋一(神戸大学大学院経済学研究科)

“Structural and Cyclical Movements of the Current Account in the U.S.: 1976-2007”

コメント：郡司大志(東京国際大学)

11:00~12:00：齋藤雅士(日本銀行調査統計局)

“The Global Impact of Chinese Growth” (藤原一平氏、大津敬介氏との共著)

コメント：加納隆(東京大学大学院経済学研究科)

セッション5：動学的一般均衡 座長：渡辺努(一橋大学経済研究所)

13 : 00~14 : 00 : 澤田康幸 (東京大学大学院経済学研究科)

“On the Role of Policy Interventions in Structural Change and Economic Development: the Case of Japan’s Postwar” (Julen Esteban-Pretel氏との共著)

コメント : 大津敬介 (上智大学国際教養学部)

14 : 00~15 : 00 : 藤原一平 (日本銀行金融研究所)

“Can News be a Major Source of Aggregate Fluctuations? A Bayesian DSGE Approach” (廣瀬康生氏、新谷元嗣氏との共著)

コメント : 稲葉大 (経済産業研究所)

セッション6 : 日本経済の構造変化 座長 : 塩路悦朗 (一橋大学経済学研究科)

15 : 30~16 : 30 : 塩谷匡介 (日本銀行調査統計局)

“Stabilized Business Cycles with Increased Output Volatility at High Frequencies” (木村武氏との共著)

コメント : 宮川努 (学習院大学経済学部)

16 : 30~17 : 30 : 宇南山卓 (神戸大学大学院経済学研究科)

「SNAと家計調査における貯蓄率の乖離 : 日本の貯蓄率低下の要因」

コメント : 岩本康志 (東京大学大学院経済学研究科)

(3) 2008年度 TRIO コンファレンス報告

今年度は22nd Annual NBER-TCER-CEPR Conference on Sticky Prices and Inflation Dynamicsというテーマで、2008年12月17-18日にアジア開銀研究所で開催致しました。プログラムは以下でご覧になれます。

<http://www.nber.org/~confer/2008/trio08/program.html>

(4) CARF-TCER 緊急セミナー報告

アメリカのサブプライム問題に端を発する金融・資本市場の混乱は、世界的な金融危機の様相を呈しています。サブプライム問題の影響は比較的小さいといわれていた日本でも、株価は大幅に下落し、その影響はさまざまな面で無視できるものではなくなりました。そこで、東京大学金融教育センター (CARF) と東京経済研究センター (TCER) との共催で、以下のような緊急の討論会を開催いたしました。

日時 : 2008年11月6日 (木) 午後6:00~7:00

テーマ : 「金融・資本市場の混乱とグローバルな経済危機」

司会 : 岡崎哲二 (東京大学大学院経済学研究科教授、TCER代表理事)

基調講演 : 植田和男 (東京大学大学院経済学研究科教授)

「クレジット危機 2007-2008年」

(5) 2009年度 TCER ジュニアワークショップ報告

第2回 TCER ジュニアワークショップは、Winter Institute of Macroeconomics, 2009 と題して、2009年2月27日 (金) から3月1日 (日) の3日間、IPC 生産性国際交流センター (〒240-0115 神奈川県三浦郡葉山町湘南国際村) で開催されました。会議は、若手研究者が報告し、それをシニ

アの研究者がコメントするという形式で行われました。プログラムは、以下の通りです。

2月27日（金曜日）

貨幣経済モデル

座長 塩路悦朗（一橋大学大学院経済学研究科，教授）

14:00～15:30：須藤直（日本銀行金融研究所）

Inventory-theoretic model of money demand, multiple goods, and price dynamics (with Hirokazu Ishise)

（討論）奥村綱雄（横浜国立大学大学院国際社会科学研究所，教授）

15:45～17:15：敦賀貴之（関西大学経済学部，准教授）

Accounting for persistence and volatility of good-level real exchange rates: The role of sticky information (with Mario J. Crucini, Mototsugu Shintani)

（討論）有賀健（京都大学経済研究所，教授）

17:30～19:00：奴田原健悟（東京大学大学院経済学研究科，博士課程後期）

Nominal rigidities, news-driven business cycles, and monetary policy (with Keiichiro Kobayashi)

（討論）中嶋智之（京都大学経済研究所，准教授）

2月28日（土曜日）

労働市場のマクロ経済分析

座長 福田慎一（東京大学大学院経済学研究科，教授）

8:00～9:30：土居潤子（関西大学経済学部，講師）

Immigration conflicts (with Laixun Zhao)

（討論）祝迫達郎（立命館大学経済学部，准教授）

9:45～11:15：今善史（東京大学大学院経済学研究科，博士課程後期）

貿易による産業構造の変化と失業率への影響

（討論）今井亮一（九州大学留学生センター，准教授）

11:30～13:00：北川章臣（東北大学大学院経済学研究科，教授）

“Hopes” and “despairs” in the labor market: An economic theory of working poor

（討論）工藤教孝（北海道大学大学院経済学研究科，准教授）

（6）2009年度TCERプロジェクト（旧返子コンファレンス）

2009年度も継続し、コンファレンスを開催します。今年度のテーマは、「制度・組織と経済発展」の予定です。

（7）2009年度TCERコンファレンス「アジアの危機」

このコンファレンス・シリーズの目的は、過去の経験を踏まえながら、東アジア諸国が直面する潜在的なリスクとその処方箋を理論的・実証的に分析することにあります。コンファレンスでは、「東アジア諸国にはどのようなリスクが存在するのか」、「リスクの顕在化を防ぐにはどうすればよい

か」など、政策的に重要な課題を経済学の観点から分析することを目的としています。2009年度は、6月26-27日に、米国カリフォルニア大学サンタクルーズ校にて開催予定です。本コンファレンスには、アジア太平洋諸国の研究者を中心に、世界各国から経済学者が参加し、東アジア地域における国際経済の制度設計という観点から、東アジア地域における貿易・国際金融の理論的・実証的な研究成果が報告され、それに関連して活発な議論が行われる予定です。

(8) 2009年度 TCER マクロコンファレンスご案内

第11回マクロコンファレンスは2009年12月前後に開催する予定です。テーマは特に定めず、マクロ関連の論文であれば、理論でも、実証でも、日本に関するものでも、外国に関するものでも良く、広く募集する予定です。しかし、日本経済・世界経済の最近の動向に新しい知見を与えてくれる論文を特に求めます。幹事は櫻川昌哉、塩路悦朗、チャールズ・ユウジ・ホリオカの3氏が務める予定です。

(9) 2009年度 TCER ミクロコンファレンスご案内

2009年度のTCERミクロコンファレンスは、第15回ディセントラライゼーション(DC)コンファレンスと共同開催の形で2009年8月2日(日)に政策研究大学院大学にて行われる予定です。これはFar East and South Asia Meeting of the Econometric Society (FESAMES 2009)の前日となります。FESAMES 2009のウェブサイトは

<http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/research/conf/FESAMES2009/call.html> です。

また、今年度はLogic, Game Theory and Social Choice 6 (LGS6)との共催コンファレンスを2009年8月26-29日に筑波大学で開催予定です。LGS6のウェブサイトは <http://www.lgs6.org/> です。

(10) 2009年度 NBER-TCER 東アジア経済セミナー

第20回NBER-TCER東アジア経済セミナーは2009年6月26-27日に、香港、香港科学技術大学の共催で行われる予定です。TCER側からは、福永一郎(日本銀行)、祝迫得夫、伊藤隆敏の3氏が参加の予定です。

(11) 2009年度 TCER ジュニアワークショップ

2008年度より開始いたしました、ジュニアワークショップを引き続き開催いたします。第3回TCER Junior Workshopは2009年12月-2010年3月の時期に開催予定です。

編集後記

既に各地で桜も咲き始め、新年度の足音も近づいて参りました。2008年度の第2号をお送りします。NBERの日本版を目指して創設されたTCERの趣旨を忘れず、今後ともTCERが研究交流の場としますます活発な組織になって欲しいと思います。新年度にあたり、研究員の皆様には、今後のコンファレンス等への積極的なご参加と、お近くの経済学研究者の方々にTCERをご紹介下さることを、理事一同お願いいたします。(グレーヴァ)

Newsletterに関するご意見やご感想は、代表理事 岡崎哲二 okazaki@e.u-tokyo.ac.jp または
総務理事 グレーヴァ香子 takakofg@econ.keio.ac.jp までご連絡下さい。

=====

(財) 東京経済研究センター

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 601 号室

Tel & Fax 03-3239-2524 Email: tcer@mbs.sphere.ne.jp